

市町村合併の歴史

市町村合併と市町村数の変遷

明治21年(1888) 71, 314 → ほぼ江戸時代の村の数にあたる。

明治22年(1889) 15, 859 「市制町村制」

《明治の大合併》行政上の目的に合った規模と自治体としての町村の単位との隔たりを無くすために、約300～500戸を標準規模として全国的に行われた町村合併。5分の1に減る。

越谷地域では、江戸時代から続いてきた2町49ヶ村が、1組合8ヶ村となる。1組合とは大沢町と越ヶ谷町である。明治35年には大沢町と越ヶ谷町は分かれて2町49ヶ村となる。

昭和28年(1953) 9, 868 「町村合併促進法」

越谷地域では、昭和29年11月3日に2町49ヶ村が合併して越谷町が誕生する。

31年(1956) 4, 668 「新市町村建設促進法」

越谷地域では、昭和33年11月3日に「越谷市」に昇格する。

36年(1961) 3, 472

《昭和の大合併》昭和28年の「町村合併促進法」がきっかけで、町村合併が大きく推進され、昭和28年と比べ3分の1に激減する。

時代背景としては戦後の新制中学校の設置管理、市町村の消防や自治体警察の創設の事務などを能率的に処理するため市町村規模の合理化が必要とされていた頃である。1地方自治体の平均人口は、8,000人を目指した。

昭和40年(1965) 3, 392 「合併特例法」

平成14年(2002) 3, 223

17年(2005) 2, 522

《平成の大合併》昭和40年の時限立法「合併特例法」をもとに、平成7年に「合併特例法」が改正され、また平成11年の国の財政支援が更に拡充されることになった「地方分権一括法」が制定された。それらがきっかけとなり平成17年3月31日の「合併特例法」の期限切れに向け全国的に市町村の合併への動きが活発になった。国は、平成14年の3分の1の1,000を目指している。市町村の数は最終的には1,700～1,800くらいになるともいわれている。

時代背景としては、財政危機の深刻化と地方分権化があげられ、それらが引き金となった。1地方自治体の平均人口は、一部の学者の間では、1万人を目指しているのではないかと考えられている。

これは、中学校の生徒用の社会科授業の資料の一環として、昭和58年12月に作成されたものです。p7に記載の吉川町は、現在は吉川市になっております。

越谷地域の町村の変遷

大相模中学校 加藤 幸一

1. 江戸時代〔2町49ヶ村〕

江戸時代、現在の越谷地域(越谷市内)には、^{にちやう しじやうかせん}2町49ヶ村の町や村があった。

2町とは ^{こしがや まち}越ヶ谷町 ^{おほあざのまち}大沢町

49ヶ村とは ^{にししかたむら}1西方村 ^{ししかたむら}2東方村 ^{みたかた}3見田方村 ^{なんび}4南百村 ^{しじやう}5四条村 ^{べつぷ}6別府村 ^{せんじふき}7千足村 ^{ましばやし}8増林村 ^{ましばやし}9増森村 ^{なかじま}10中島村 ^{はなだ}11花田村 ^{こはやし}12小林村 ^{ふななご}13船渡村 ^{おほまつ}14大松村 ^{おほあざ}15大杉村 ^{かわさき}16川崎村 ^{むこうのむら}17向畑村 ^{おほよし}18大吉村 ^{やじゅうろう}19弥十郎村 ^{ひらた}20平方村 ^{おほあざ}21大泊村 ^{かみまくり}22上間久里村 ^{したまくり}23下間久里村 ^{おほあざ}24大里村 ^{さんのみや}25三野宮村 ^{おほあざ}26大道村 ^{おほたけ}27大竹村 ^{おんま}28恩間村 ^{ふくろま}29袋山村 ^{おほあざ}30大林村 ^{おほあざ}31大房村 ^{のびた}32野島村 ^{おほあざ}33小曾川村 ^{すなはら}34砂原村 ^{あざし}35秋島村 ^{あしうら}36後谷村 ^{にしあらい}37西新井村 ^{ながしま}38長島村 ^{しんめいした}39神明下村 ^{しじやうの}40四丁野村 ^{やなか}41谷中村 ^{しじやうもん}42七左衛門村 ^{こしあき}43越巻村 ^{おほあまの}44大間野村 ^{かわさね}45瓦管根村 ^{あびり}46登戸村 ^{あせう}47蒲生村 ^{おほあざ}48伊原村 ^{あまづか}49麦塚村

2. 明治22年〔1組合町8ヶ村〕

明治22年4月1日、日本全国の7万余の旧町村(共同体的な自然村であった)は、1万余の新町村(行政上の町村となる)に吸収合併され、旧町村は新町村の大字として名をとどめることになる。現在の越谷地域もこの町村合併により、1町8ヶ村の町と村々に吸収合併される。

1町とは ^{こしがや}越ヶ谷町・^{おほあざ}大沢町組合(越ヶ谷と大沢の2町が一つの組合町となったもの)

8ヶ村とは ^{(1)おほあまの}1大相模村 ^{(2)ましばやし}2増林村 ^{(3)みたかた}3新方村 ^{(4)あまづか}4松井村 ^{(5)あせう}5大袋村 ^{(6)あざし}6秋島村 ^{(7)あせう}7出羽村 ^{(8)あせう}8蒲生村

新8ヶ村と旧49ヶ村との関係は、次の通り、右は大字である。

⁽¹⁾大相模村 --- ¹西方 ²東方 ³見田方 ⁴南百 ⁵四条 ⁶別府 ⁷千足
(7ヶ村)

⁽²⁾増林村 --- ⁸増林 ⁹増森 ¹⁰中島 ¹¹花田 ¹²東小林(小林)
(5ヶ村)

⁽³⁾新方村 --- ¹³船渡 ¹⁴大松 ¹⁵大杉 ¹⁶北川崎(川崎) ¹⁷向畑 ¹⁸大吉 ¹⁹弥十郎
(7ヶ村)

- (4) 桜井村...²⁰平方・²¹大泊・²²上間久里・²³下間久里・²⁴大里
(5ヶ村)
- (5) 大袋村...²⁵三野宮・²⁶大道・²⁷大竹・²⁸恩間・²⁹袋山・³⁰大林・³¹大房・それに明
(7ヶ村と
恩間新田) 治4年に恩間村から分村し独立した「恩間新田」とはいる。
³²野島・³³小曾川・³⁴砂原・³⁵南荻島(荻島)・³⁶北後谷(後谷)
(7ヶ村) ³⁷西新井・³⁸長島

(7) 出羽村...³⁹神明下・⁴⁰四丁野・⁴¹谷中・⁴²七左衛門・⁴³越巻・⁴⁴大間野
(6ヶ村)

(8) 蒲生村...⁴⁵瓦曾根・⁴⁶登戸・⁴⁷蒲生
(3ヶ村)

なお 小林・川崎・荻島・後谷は 明治12年の新しい郡制施行にと
なまって 同じ郡内あるいは隣接郡に同じ村名があることはまぎらわ
しいため 東西南北をつけ それぞれ 東小林(現在の菅沼町に西小
林がある)・北川崎(現在の八潮市に南川崎がある)・南荻島(現在
の羽生市に北荻島がある)・北後谷(現在の八潮市に南後谷がある)
と、村名を変更している。

また 越谷地域 旧2町49ヶ村のうち旧2村の伊原村・表塚村は
現在の草加市内にある柿木村・南青柳村(青柳村)と合併し 合併村
の新しい村「川柳村」の一部となる。

新村名のいわれは 次の通り。

大相模村... 中世、このあたりを「大相模郷」と称したことから この
郷名を採用する。

増林村... この地域で 一番大きい村の「増林村」から。

新方村... この地域は 近世「新方領」の一部であったことから。

桜井村... この地域は 中世「桜井郷」と呼ばれていたとされること
から。

大袋村... 大道・大竹・大林・大房の「大」と袋山の「袋」が一つに
なつて できた新名。

荻島村... この地域で 一番大きい村の「南荻島村」(荻島)から。

出羽村... この地域を流れている「出羽堀」から。

蒲生村…この地域で一番大きい村の「蒲生村」から、

なお、伊原・麦塚が合併した「川柳村」は、柿木の「カ」、伊原の「ハ」、
南青柳(青柳)の「ヤ」、麦塚の「ギ」をそれぞれとって合成して
できた村名である。「カハヤギ」は「かわやぎ」と読める。

3. 明治35年〔2町8ヶ村〕

越ヶ谷大沢の両町の組合町の分離によって 独立した2つの行政町となる。

2町とは 越ヶ谷町・大沢町

8ヶ村は 前と全く変わらず

4. 昭和29年11月3日〔越谷町の誕生〕

昭和29年11月3日、現在の越谷地域での2町8ヶ村の町村合併により、
越谷町が誕生する。2町8ヶ村が一つの町になったのである。その新
しい町名「越谷」は「越ヶ谷」の「ヶ」をとったものである。

なお 翌年の1月10日に 越谷町の町章が制定される。

今日の越谷市の市章である。まわりの10個の輪は

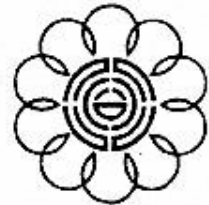
合併した10町村(2町8ヶ村)をあらわし、中央の

☉は カタカナの「コ」を4つ集めたもので「コ」

が4つ、つまり コ4(「越」)をあらわし、中心の

☺は「谷」の文字を 図案化したものである。

越谷市章



5. 翌年11月3日〔草加町の一部が越谷町に吸収合併〕

昭和30年8月1日に いったん 草加町に合併した川柳村のうち 伊原・
麦塚・上谷が 3ヶ月後の11月3日に 草加町から分離して 境界を変
更し 越谷町に吸収合併される。

なお 上谷は 江戸時代以来 東方村の領地であったが 川柳村との地理
的結びつきが強かったため 戦後 川柳村にはいる。

6. 昭和33年11月3日〔越谷市に昇格〕

昭和33年11月3日、埼玉県では22番目(21番目は 昭和33年11月1日に
市に昇格した草加市)、全国では543番目に 市政が施行され、越谷市となる。

2. 明治22年の町村合併後の越谷地域

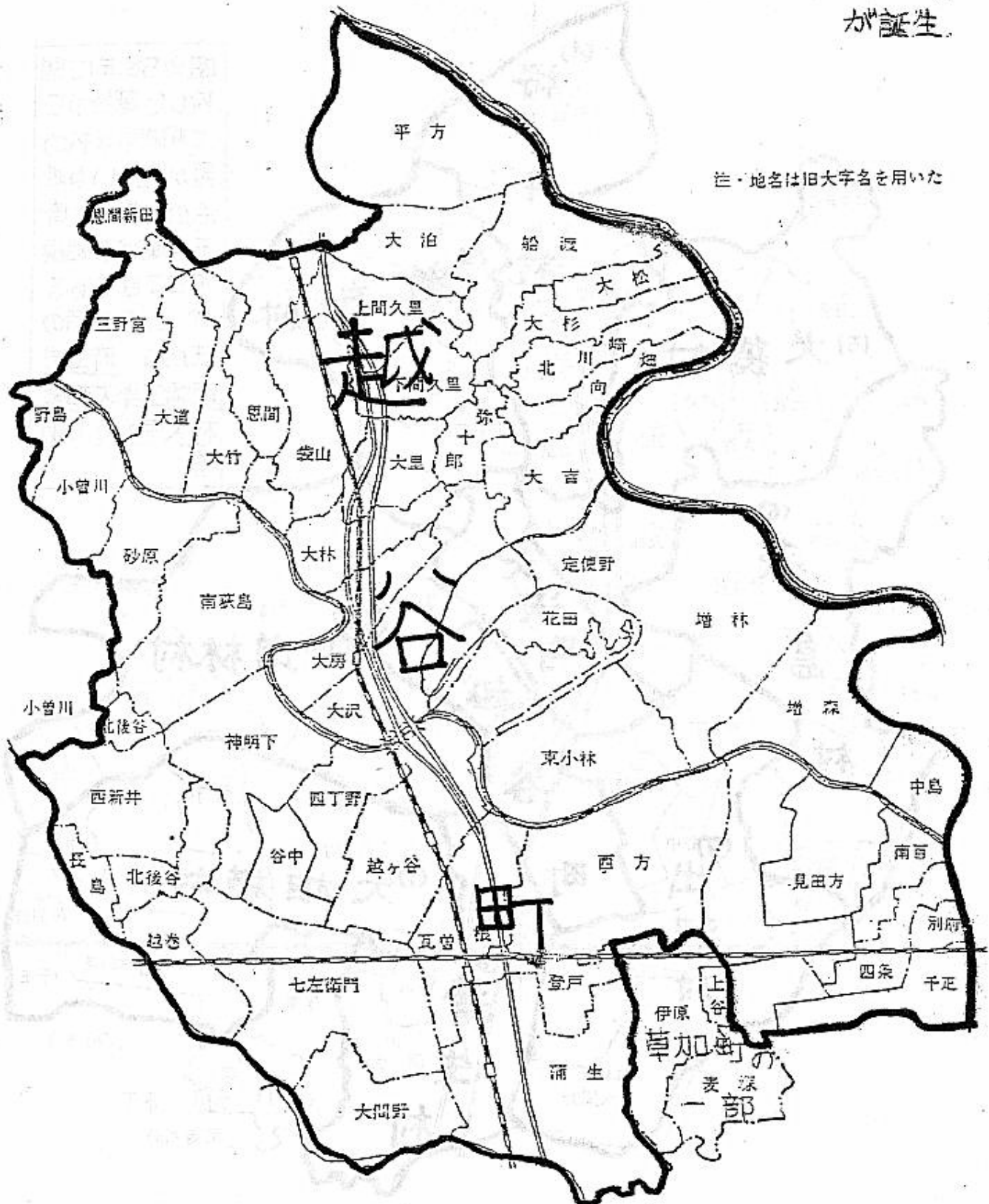
1 組合町8ヶ村、のちに2町8ヶ村 (M35)となる



昭和58年に開校した越谷市立大相模中学校の置かれている地点の住所は埼玉県越谷市相模町三丁目であるがこの当時の住所は埼玉県南埼玉郡大相模村大字西方である。

4. 昭和29年11月3日の^{こしがやまち}越谷町誕生

2町8ヶ村の町や村が一つに合併し 新たに「越谷町」が誕生。



6. 昭和33年11月3日の越谷市昇格

現在の「越谷市」になる。

当時の人口は約4万8千人、現在は5倍の24万人を超える。

(558-12-1 現在 241,543人)



戸口の推移

(戸数と人口)

地区	村	文政		天保		明治9年		
		戸数	戸数	戸数	人口	(男)	(女)	牡馬
桜井	平大	185	186	204	1052	519	533	15
	大迫	50	42	60	303	145	158	1
	大里	50	45	48	248	122	126	
	上間久里	50	55	54	266	141	125	2
	下間久里	50	60	55	313	158	155	
新方	北川崎	50	50	53	279	139	140	1
	大西吉畑	30	31	32	189	82	106	2
	大松	60	59	62	386	182	204	3
	大杉	18	19	23	113	63	50	
	大杉	31	33	33	200	100	100	2
大袋	大船渡	20	31	34	210	100	110	3
	大恩間	108	92	112	575	250	325	3
	大恩間新田	90	80	58	287	152	135	10
	大恩間			30	171	88	83	3
	大竹	56	45	58	308	158	150	3
増林	大道路	87	85		393	212	181	5
	三野宮	64	60	71	353	175	178	13
	大袋山林	70	71	86	470	230	240	1
	大袋山林	31	32	35	193	96	97	3
	大袋山林	50	55	63	313	156	157	
荻島	増中	240	261	274	1517	749	768	5
	増中	130	136	156	872	440	432	2
	中島	30	33	42	206	101	105	1
	東小林	102	110	115	689	340	349	2
	花田	48	47	52	358	163	195	
出羽	砂原	64	60	67	365	181	184	5
	小曾川	62	40	49	252	126	126	1
	野島	19	18	26	148	75	72	2
	南萩島	131	128	138	790	390	400	3
	北後谷	31	35	38	199	91	108	2
蒲生	長新島	14	13	18	83	44	39	
	西新井	74	80	87	469	221	248	13
	四丁野	66	64	76	411	205	206	
	谷中	48	49	50	295	137	158	2
	越巻	36	40	45	252	126	126	7
大相模	大間野	54	59	69	410	215	195	
	七左衛門	114	103	134	728	353	375	7
	神明下	59	54	68	396	195	201	5
	登戸	46	43	45	286	138	148	1
	瓦菅根	105	96	135	727	354	373	
川柳	蒲生	217	217	260	1438	711	727	1
	見田方	59	56	57	335	161	174	2
	子正	55	58	60	333	170	163	2
	別府	9	11	12	68	35	33	
	四条	32	28	35	199	104	95	
大相模	南百	29	29	33	179	92	87	
	西方	160	179	188	1003	484	519	3
	東方	85	105	120	657	314	343	14
川柳	上谷							
	上谷塚	71	78	72	406	203	203	4
大相模	伊原	75	73	82	469	226	243	6
	大沢	481	466	450	2126	1055	1071	
大相模	越ヶ谷	549	538	595	2750	1370	1380	

① 恩高新田は明治4年に恩高村から分村し独立。上谷は戦後まで東方領に属し東方の一部となっていた。
 注1 典拠 「新編武蔵風土記稿」
 注2 典拠 「武蔵国御改革組合限石高村数村名録」(喜望院大学 論集4-1 所収大石慎三郎論文参照)
 注3 典拠 「武蔵国郡村誌」

文政年間は1818年～1830年
 天保年間は1830年～1844年

※上谷の地は、江戸時代から東方の領分に入っていたが、明治22年の町村合併で川柳村に仮編入し、さらに戦後の昭和25年の行政区画の変更により東方から離れて正式に編入し、大相模村から川柳村に属するようになった。

1. 江戸時代の越谷地域

2町49ヶ村の町や村があった。

